

# グラウンドゴルフで交流

## 県福社会が企画 聴覚・肢体障害者ら



⑤視覚障害がある人のプレー時には付き添いのヘルパーが声をかけていた⑥グラウンドゴルフを楽しむ人たちはいずれも静岡市

静岡市の三保真崎グラウンドゴルフ場で14日、19回目の「県身体障害者グラウンド・ゴルフ大会」が開かれた。体力をつけるとともに参加者どうしで交流してほしい、と県身体障害者福祉会が企画した。40代から90代

までの聴覚や視覚、肢体の障害や、臓器の機能障害をもつ人たち67人が参加した。

グラウンドゴルフは日本発祥のスポーツで、専用のクラブでボールを打ち、ホールポストに入るまでの打数を数える。準

備やルールが簡単で、年齢や障害などにかかわらずだれでもプレーできるのが特徴だ。

参加者は455人のグループに分かれ、3コース計24ホールを回った。裾野市から参加した数野静子さん(65)は視覚障害がある。ボールを打つときは、付き添いのヘルパーがホールポストの近くに立ち、「こっちこっち」と声をかけていた。グラウンドゴルフを始めて約20年という数野さんは「無理せず楽しめるのが大事」と話した。

(山下 稔太郎)